

館名	古田公民館																																	
事業名	このまちにくらしたいプロジェクト																																	
趣旨	<p>○少子高齢社会、人口減少社会等を見据え、中学生を主体に地域住民など多世代が連携し、地域課題に対応するまちづくり活動に取り組む。</p> <p>○これらの学習や活動を通して、社会に主体的に関わり、行動する人材を育む。</p>																																	
特徴	<p>○多世代共生</p> <p>○ソーシャルデザインと人材育成</p>																																	
事業の様子																																		
	第 8 回 (H29.1.29)	第 9 回 (H29.2.26)																																
																																		
	第 10 回 (H29.3.5)	第 10 回 (H29.3.5)																																
活動実績	<table border="1"> <thead> <tr> <th>実施回</th> <th>第 8 回</th> <th>第 9 回</th> <th>第 10 回</th> <th>第 11 回</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実施期日</td> <td>1 月 29 日(日) 10:00～13:00</td> <td>2 月 26 日(日) 9:30～15:00</td> <td>3 月 5 日(日) 11:00～15:00</td> <td>3 月 26 日(日) 10:00～12:00</td> </tr> <tr> <td>実施場所</td> <td>古田公民館、 古江西町公園 (雨天のため公園 は中止)</td> <td>中央公園(広島市 中区基町)※公民 館集合・解散</td> <td>古江西町公園</td> <td>古田公民館</td> </tr> <tr> <td>実施機関・団体</td> <td colspan="4">古田公民館・多世代寺子屋ネットワーク(協力:もとまち自遊ひろば「ゆうえん隊」)</td> </tr> <tr> <td>参加者数</td> <td>8 人 (中学生 3 人、大 人 5 人)</td> <td>14 人 (中学生 6 人、大 人 8 人)</td> <td>118 人 (園児 38 人、小学 生 21 人、中学生 10 人、高校生 2 人、大人 47 人)</td> <td>6 人 (中学生 2 人、高 校生 1 人、大人 3 人)</td> </tr> <tr> <td>事業費</td> <td>需用費 10,565 円</td> <td>報償費 5,000 円</td> <td>報償費 10,000 円 需用費 8,773 円</td> <td>なし</td> </tr> </tbody> </table>				実施回	第 8 回	第 9 回	第 10 回	第 11 回	実施期日	1 月 29 日(日) 10:00～13:00	2 月 26 日(日) 9:30～15:00	3 月 5 日(日) 11:00～15:00	3 月 26 日(日) 10:00～12:00	実施場所	古田公民館、 古江西町公園 (雨天のため公園 は中止)	中央公園(広島市 中区基町)※公民 館集合・解散	古江西町公園	古田公民館	実施機関・団体	古田公民館・多世代寺子屋ネットワーク(協力:もとまち自遊ひろば「ゆうえん隊」)				参加者数	8 人 (中学生 3 人、大 人 5 人)	14 人 (中学生 6 人、大 人 8 人)	118 人 (園児 38 人、小学 生 21 人、中学生 10 人、高校生 2 人、大人 47 人)	6 人 (中学生 2 人、高 校生 1 人、大人 3 人)	事業費	需用費 10,565 円	報償費 5,000 円	報償費 10,000 円 需用費 8,773 円	なし
実施回	第 8 回	第 9 回	第 10 回	第 11 回																														
実施期日	1 月 29 日(日) 10:00～13:00	2 月 26 日(日) 9:30～15:00	3 月 5 日(日) 11:00～15:00	3 月 26 日(日) 10:00～12:00																														
実施場所	古田公民館、 古江西町公園 (雨天のため公園 は中止)	中央公園(広島市 中区基町)※公民 館集合・解散	古江西町公園	古田公民館																														
実施機関・団体	古田公民館・多世代寺子屋ネットワーク(協力:もとまち自遊ひろば「ゆうえん隊」)																																	
参加者数	8 人 (中学生 3 人、大 人 5 人)	14 人 (中学生 6 人、大 人 8 人)	118 人 (園児 38 人、小学 生 21 人、中学生 10 人、高校生 2 人、大人 47 人)	6 人 (中学生 2 人、高 校生 1 人、大人 3 人)																														
事業費	需用費 10,565 円	報償費 5,000 円	報償費 10,000 円 需用費 8,773 円	なし																														

実施回	第 8 回	第 9 回	第 10 回	第 11 回
事業の流れ	<p><プログラム></p> <p>①3 月イベントのプログラム検討と準備</p> <p>②大道芸プログラムの体験</p> <p><流れ・所感等></p> <p>▽プレーパーク、カフェ、大道芸の 3 本柱で公園をゾーニングしていくことが決まった。</p> <p>▽公園で準備りハ一サルする予定が雨天のため中止、公民館でワゴン電車づくり、今後のスケジュールと役割分担などを決めた。</p>	<p><プログラム></p> <p>「もとまち自遊ひろば」見学体験実習</p> <p>①ロープワーク実践実習</p> <p>②あそび場づくりのための準備物確認</p> <p>③カレー調理と試食</p> <p><流れ・所感等></p> <p>▽2 度目の冒険あそび場見学。不安要素のロープワークの手ほどきを受けることができた。</p> <p>▽3 月イベントに向けて、必要な準備物を確認。木工用具やロープ遊具など、ゆうえん隊に協力してもらえるものなどを相談した。</p> <p>▽生徒たちは、カレーづくりや火起しを自発的に取り組んでいた。</p> <p>▽受験を終えた 3 年生が久々に参加。3 月イベントに向け企画を提案してくれた。</p>	<p><プログラム></p> <p>①冒険あそび場プレーパークのある公園（主に幼児や小学生が対象）</p> <p>②大人もくつろげるカフェのある公園（主に親子連れの保護者などが対象）</p> <p>③にわか大道芸を体験できる公園（幅広い世代が対象）</p> <p><流れ・所感等></p> <p>▽木々に張り巡らされた多彩なロープ遊具や、乗り物として代用した払い下げのワゴンなどが、親子連れなどに好評だった。</p> <p>▽カップや皿回しなど、多世代で楽しめる遊びが、ふだん見知らぬ住民同士の交流を深めた。</p> <p>▽カフェとともにおやつ作りのコーナーでは、燻製やマシュマロ焼きなどが人気を集めた。</p>	<p><プログラム></p> <p>1 年間のふりかえり</p> <p><流れ・所感等></p> <p>▽中学生が諸行事等で参加が少なかったが、3 月イベントのスライド映像を見ながら、成果をふりかえることができた。</p> <p>▽次年度に向け、5 月頃に参加者募集、6 月頃から冒険あそび場を年間 4 回程度定期開催することを目指すこととした。</p>
参加者の声	<p>○イベント参加者にアンケートで尋ねたところ、85%が公園のあり方に対して意識の変容が見られた。その理由には、「三世代と一緒に遊べる」「よその子どもや大人と接する時間が持てた」「中学生が地域づくりに参加していて感心した」「普段の公園にはない遊びがたくさんあり、いつもと違う雰囲気を楽しめた」などが挙げられた。</p>			

成果と課題

【成果】

- 3 月に一年間の集大成として実施した、冒険あそび場「ワンダふるたパーク」は、今年度ようやく天候に恵まれ、延べ 100 人を超える多様な世代の住民たちで、大きな賑わいと楽しい空間をつくることができた。
- 中学生提案の冒険あそび場は、地域で多世代交流の機会が減少しつつある中、子育てや孫育てなど幅広い世代をつなぐ地域の居場所として、大人たちの共感を呼び、地域に根づきつつある。
- 関わる大人たちが「自分が中学生の頃にこんな場がほしかった」と口を揃えて言うほど、中学生にとって話し合いのスキルや地域の大人との関わりなど、人間形成に役立つ機会となっている。

【課題】

- 中学生は世代交代があるため、どこまで主体性を持たせるかは毎年試行錯誤している。正解はないので、毎年応募した生徒たちに馴染む方法で進めていきたい。
- 住民活動の初動期に公民館の関わりは重要だが、将来的には住民主体の活動体が「冒険あそび場」を地域のしくみとして自主運営していけるところに持っていきたい。そのために、企

画、運営、広報、公園使用などの各種手続きなど、そのノウハウを連携する団体に引き継いでいかなければならない。今年度は徐々にではあるが、コアメンバーによる準備が整いつつある。

【運営した感想】

(工夫したこと)

- 当初はサポーター拡充のため養成講座を検討したが、プレーパーク実施団体(ゆうえん隊)に相談したところ、実際に活動を見せ自然に集めてはどうかとアドバイスを受け、毎月の活動場所を公園にシフトさせた。息の長い取り組みになるが、来園者や関心ある人たちに現場で意義を伝えつつ徐々に巻き込みながら、定例化を図っていきたい。
- あまり準備が負担になると長続きがしないので、以前に比べできるだけ省力化し、地域や他団体の協力を呼びかけるよう努めた。たとえば、ニュースポーツ「クッパ」の普及団体に声をかけたところ、快くイベントに参画してもらうことができ、多世代で楽しめるプログラムとしてイベントの充実度が増した。
- 当日の写真をインターネットや写真展で利用するため、受付時にプライバシーに配慮するため撮影の可否を尋ね、名札代わりにカラーのガムテープで色分け識別できるようにした。

(相談したいこと)

- 中学生にとっては、校外行事のため、できるだけ規則を設けず、参加者同士の話し合いによって行動できるように心がけているが、あまりに自由すぎる場面もある。中学生を主体に進めたいが、集団行動や興味を持って課題解決に臨めるような、中学生の参加意識を高めるユニークなアクティビティや運営方法のアイデアについて、アドバイスがほしい。
- 子どもたち自身が創りだす遊びを発見できるよう目指しているが、それらの専門性をもつ指導者との接点がない。大人も含め、そういった専門性を学べる機会をつくりたい。

(嬉しかったこと)

- プロジェクトは、中学生が学校や家庭以外の第三の居場所として、ありのまま自身を発揮しやすい場に成長しているようだ。
- 3月イベント成功の反響として、町内会が管理する公園内の倉庫の一部を、プロジェクトの活動備品保管庫として借用できることになった。地域の理解と協力が得られたことは、何よりも嬉しい成果である。

(今後の希望)

- 今年度の成果を得て、次年度は年4回程度の定例化を目指し、さらに定着を図り、公園を活用した地域活性化につなげていきたい。

連絡先

古田公民館
〒733-0874 広島市西区古江西町 19-15
電話 082-272-9001 ファクシミリ 082-272-9001
電子メール furuta-k@cf.city.hiroshima.jp